

5-13

トイレに行きたい

排泄介助について考える。

オムツ外し

ケアの質の向上

特別養護老人ホーム 第2育秀苑

ケアワーカー 池辺憲之

ケアワーカー 平山和紀

東京都練馬区羽沢2-8-16

ケアワーカー 荒井健太

03-3991-0523

E-mail iku2-tokuyou@ikushukai.or.jp

03-3991-0570

URL <http://ikushukai.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

昭和27年社会福祉法人育秀会が設立。昭和62年に練馬区初の特別養護老人ホーム育秀苑を開設。その後平成10年に第2育秀苑を開設する。

〈取り組んだ課題〉

現在入所者の7割がオムツを使用している。
この状況で、各人に合った排泄介助とは何かを考える。
その中で、出来るだけトイレで排泄をするということを
目的に取り組む。

〈活動の成果と評価〉

対象者A：オムツ内への排尿よりもトイレ内への排尿
量が増えてきた。
対象者B：失禁回数は減ってきている。
対象者C：失禁のある日と無い日がある。

〈具体的な取り組み〉

対象者：3名
対象者A：転倒し骨折したあと、オムツ使用になった。
対象者B、C：トイレを使用するが、トイレ内に排尿
がなく失禁する確率が高い。
定時のトイレ誘導から時間をずらして誘導していくこ
とで、どの時間に排尿が多いかをチェックする。
5月頭から、1週間毎に誘導時間を変更していく。
合わせて水分摂取量をチェックする。
取り組んだ職員：介護職（内3名が中心）

〈今後の課題〉

利用者にとって良い排泄ケアとは何かについて掘り
下げて考えていく。またそれを「生活」という視点
から捉えていく取り組みが必要かと思う。